

あれこれファレンス



ミニ図書館だより【なんでも質問箱】

No. 220

平成28年12月1日

熊本県立図書館発行

“レファレンスサービス”ってなに？

図書館で所蔵しているたくさんの資料を活用して、皆さんが調査したい内容をより早く正確に調べられるようお手伝いするサービスのことです。

この「あれこれファレンス」では、過去に受けたさまざまなレファレンスの中から、いくつかの興味深い事例をピックアップして紹介します。へえ～こんな質問も図書館で分かるのか！と、楽しめること間違いなしです。

Q. おたずね

もう年の瀬ですね。新年を迎える準備が少しずつ始まりますが、私の実家では新年にちょっと変わったものを飲みます。元旦に家族そろって梅干入りのお茶を飲むのです。今も毎年続けていますが、少し不思議に思っています。これはどんな由来があるのでしょうか？



A. こたえ

縁起が良いとされる飲み物には桜湯や昆布茶などありますが、これもその一つで大福茶（おおぶくちやまたは、だいふくちや）と呼ばれるものです。古くから日本では、元旦の早朝に汲んだその年最初の水を「若水（わかみず）」と呼びました。この水には邪気を払う力があるとされ、この水でいれたお茶に梅干や昆布を入れたものを大福茶と呼んでいます。元旦に無病息災を願い、家族そろってこのお茶を飲む風習が全国的に残っています。また、俳句などで使われる「歳時記」でも新年の季語で「大服（おおぶく）」（大福）として、このお茶のことが載っています。

由来は諸説ありますが、平安中期に京で疫病が蔓延した時、六波羅蜜寺の空也上人が梅干を入れたお茶を民に与えたところ、たちまち病が平癒したという言い伝えに関係があるようです。

年越しそば、おせち料理、お雑煮に七草粥など昔からの風習の中には、今は省略されそのこと自体を知らない若い人も増えてきています。でも、こうした風習には長い歴史の中で繰り返されてきた意味があるのです。今から年末にかけてそんな風習について、おじいちゃんおばあちゃんに尋ねたり図書館で調べて、実践してみたいかたはどうか。何か新しい発見があるかもしれません。

【参考資料】

『年中行事読本』 岡田芳朗／著 創元社 386. 1／才

『熊本の冠婚葬祭』 熊本日日新聞社 385／ク

『年中行事大辞典』 加藤友康／編 吉川弘文館 R386. 1／カ

『新日本大歳時記 新年』 飯田竜太／〔ほか〕監修 講談社 911. 3／イ／（5）

『角川俳句大歳時記 新年』 角川学芸出版／編集 角川学芸出版 C911. 3／カ



おといあわせ 熊本県立図書館

〒862-8612 熊本市中央区出水2-5-1

TEL:096-384-5000 FAX:096-385-4214 Email:toshokan@pref.kumamoto.lg.jp